

## 高糖分飼料イネ「たちすずか」の飼料価値

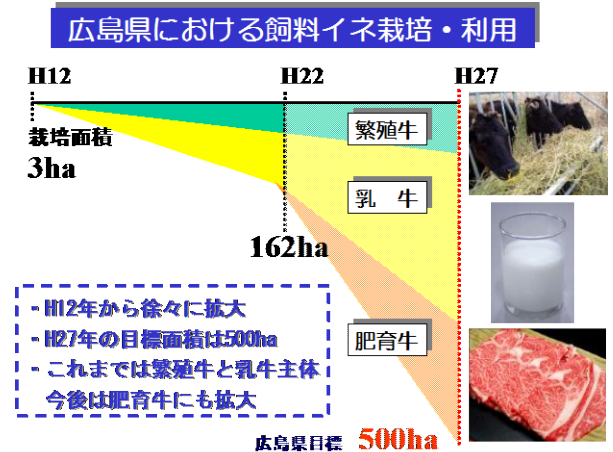
### 驚異の飼料性能！ 飼料イネの革命児誕生

研究期間 平成 21 年度～22 年度（競争的資金研究）  
 共同研究機関 農業技術センター，（独）近畿中国四国農業研究センター

#### 1 背景と目的

飼料イネは近年急速に生産・利用が拡大している作物です。耕種農家や集落法人からは水田で栽培しやすい新たな土地利用型作物として、畜産農家からは安全な国内産飼料として注目されており、広島県では平成 27 年度までに栽培面積を 500ha（ハクトール）まで拡大する計画を推進しています。

県内の研究機関で開発された新品種「たちすずか」は、従来の普及品種とは性質が大きく異なり、今後の飼料イネ利用拡大に寄与する品種として期待されます。そこで、成分組成や消化性、栄養価などの特性を調べ、「たちすずか」の飼料としての価値を明確にしました。



#### 2 研究成果の概要

「たちすずか」は従来品種と比較して、

##### ①多肥栽培でも倒伏しない

穂重割合が小さく重心が低いため耐倒伏性が極めて強く栽培しやすい。

##### ②糖が従来品種の2～3倍も多い

本来、穂に転流する糖が茎葉に蓄積するため発酵保存飼料であるサイレージの調製に有利。

##### ③栄養価が従来品種の1.4倍

繊維の消化率が高く、可消化養分総量（栄養価）も多いため、乳牛や肥育牛など栄養要求量が多い家畜の飼料に適している。

##### ④収穫に適した時期が従来品種の2倍以上も長い

牛の第一胃内での分解性が良く、しかも出穂後 60 日目になってもほとんど低下しない。などの優れた特性を持つことがわかりました。

#### 3 実用化に向けた対応

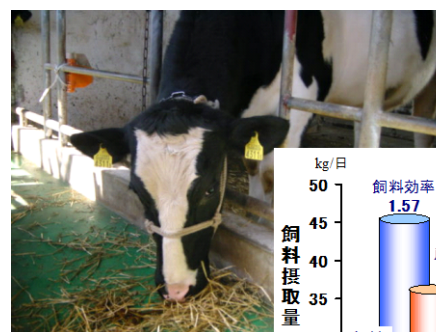
栽培農家へ農業技術センターや農業技術指導所と連携し、従来品種から「たちすずか」への置換や、新規栽培地での栽培を推進します（H23 年度は県内生産量の約 3 分の 1 を「たちすずか」に置換を計画）。

また、引き続き、給与試験や現場実証などに取り組み、具体的な給与方法や、家畜に給与した場合のメリットを明確にし、研修会などの情報提供や給与場面での技術指導を通して、畜産農家での利用を促進します。

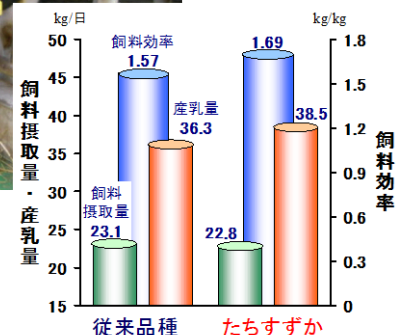
#### 品種比較



	従来品種 クサノホシ	新品種 たちすずか
穂重割合	40～50%	10～15%
乾物中糖含量	2～5%	8～15%
可消化養分総量	55.5%	59.4%
粗繊維消化率	50.0%	60.6%
第1胃内 出穂30日 分解率	53%	63%
出穂60日	45%	61%



飼料イネ混合飼料  
給与試験  
H22年度結果



(飼料効率=産乳量/飼料摂取量)